

2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料



2026年8月10日
品川リフラ株式会社

INDEX

1. 連結業績ハイライト
2. EBITDA・営業利益の増減要因
3. セグメント別売上高およびEBITDA
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 地域別の売上高
9. 2027年3月期の通期業績見通し
10. 2027年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）

1. 連結業績ハイライト

(単位：億円)

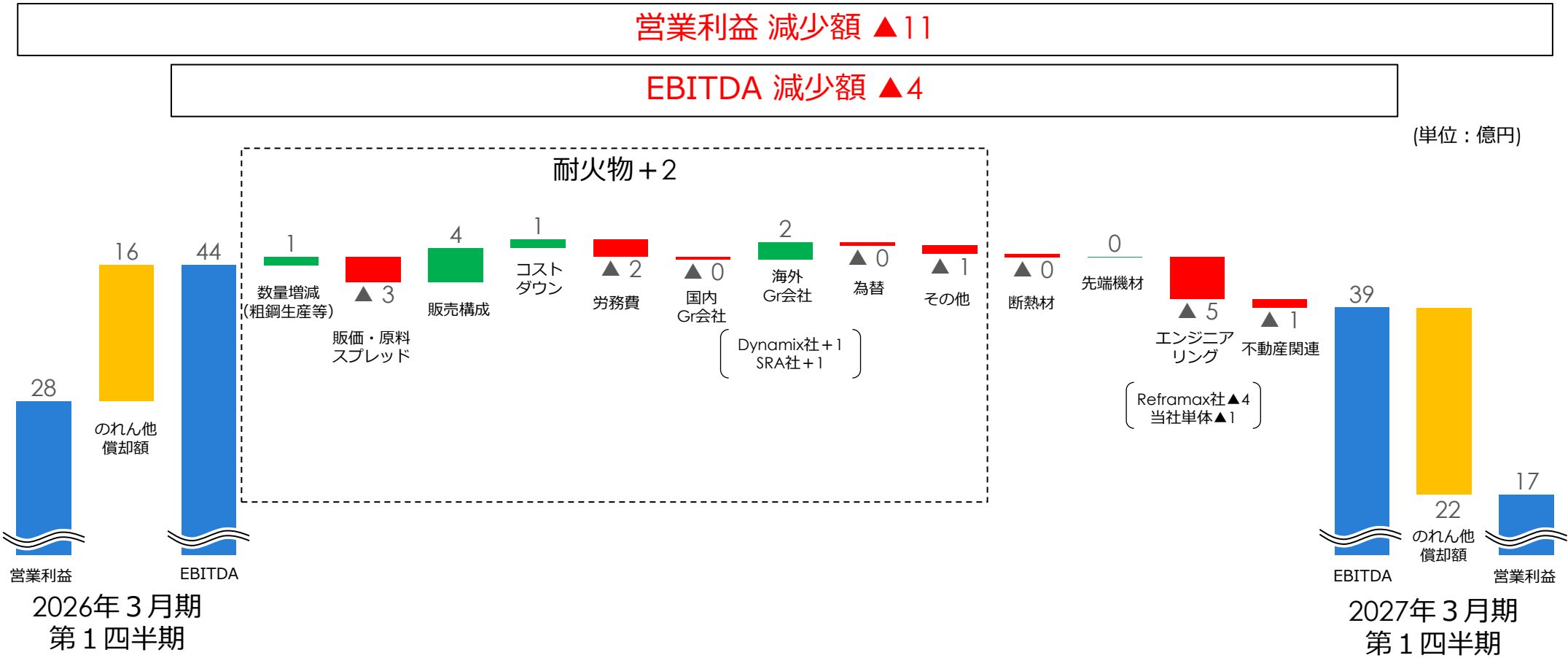
	2026年3月期 第1四半期 実績	2027年3月期 第1四半期 実績	前年同期比
売上高	382	465	+83 (+21.8%)
EBITDA	44	39	▲4 (▲9.3%)
営業利益	28	17	▲11 (▲39.9%)
経常利益	30	30	▲0 (▲2.8%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	17	46	+29 (+166.2%)
<指標> EBITDAマージン	11.5%	8.6%	▲2.9pt
ROS（営業利益率）	7.6%	3.7%	▲3.9pt
ROIC	5.1%	3.1%	▲2.0pt
Debt/EBITDA倍率	3.0倍	2.0倍	▲1.0pt

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2027年3月期 第1四半期の国内粗鋼生産量は、前年同期比1.0%増の2,035万トン。
- 売上高は、耐火物セクターにおける当社単体の販売数量増加や海外関係会社の売上増加、断熱材・先端機材の両セクターにおける増収の確保、ならびにエンジニアリングセクターにおけるブラジルReframax Engenharia S.A.（以下、Reframax社）の連結効果により、全体として増収。
- 損益面では、全セクターにおいて高付加価値製品・サービスを中心とした拡販活動等を進めたものの、耐火物セクターにおける中東情勢の影響による原燃料コストの上昇や一部海外関係会社の設備トラブルに伴う一時的な生産低下に加え、Reframax社において主要顧客の工事案件の時期後ろ倒しやインフレ進行に伴うコスト上昇により、EBITDAは減益。営業利益はのれん等の償却負担の増加により、減益。一方、経常利益は為替差益の影響により、ほぼ横ばい。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、Shinagawa Refractories Australasia Pty Ltdのクイナナ工場における土地収用に伴う固定資産売却益の計上により、増益。

2. EBITDA・営業利益の増減要因



- EBITDAは▲4億円の減益。耐火物セクターは、販売数量の増加や販売構成の改善、海外グループ会社の収益寄与により増益となったものの、エンジニアリングセクターにおけるReframax社の業績悪化が影響し、全体では減益。断熱材・先端機材セクターは、需要環境が改善傾向にあるものの、第1四半期は前年同期並みで推移。
- 営業利益は、のれん等償却額および減価償却費の増加により、▲11億円の減益。

3. セグメント別売上高およびEBITDA

(単位：億円)

		2026年3月期 第1四半期 実績	2027年3月期 第1四半期 実績	前年同期比	
耐火物	売上高	262	301	+39	(+14.9%)
	EBITDA	34	37	+2	(+8.6%)
断熱材	売上高	38	41	+2	(+6.9%)
	EBITDA	7	6	▲0	(▲11.2%)
先端機材	売上高	9	11	+2	(+21.0%)
	EBITDA	0	0	+0	(+96.8%)
エンジニアリング	売上高	72	114	+41	(+57.5%)
	EBITDA	0	▲4	▲5	(－%)
その他	売上高	2	－	▲2	(－%)
	EBITDA	1	－	▲1	(－%)
合計	売上高	382	465	+83	(+21.8%)
	EBITDA	44	39	▲4	(▲9.3%)

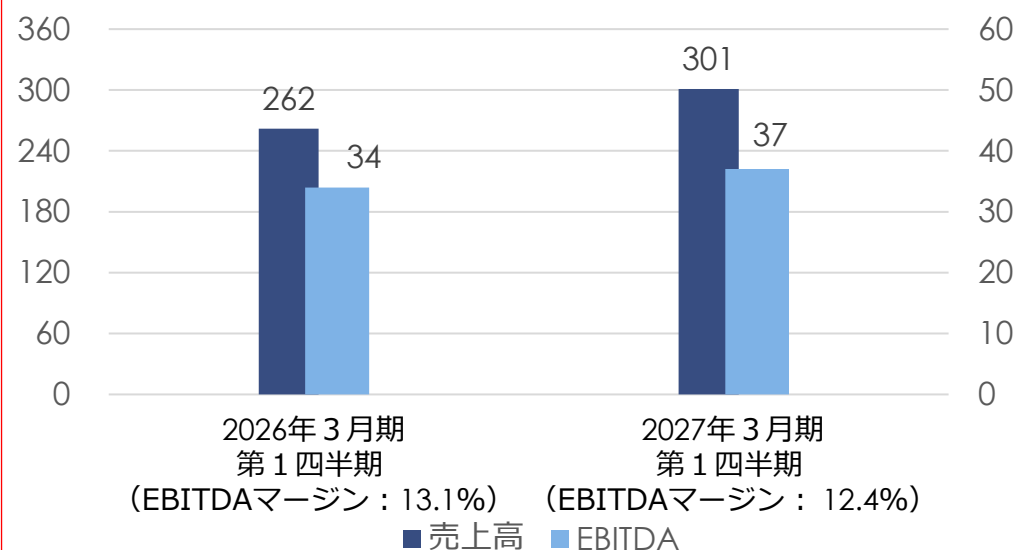
注：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

4. セグメント別概況 ①耐火物セクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	262	301	+39	(+14.9%)
EBITDA	34	37	+2	(+8.6%)
営業利益	22	22	+0	(+1.5%)
EBITDAマージン	13.1%	12.4%	-	(▲0.7Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

＜第1四半期業績について＞

- ▶ 当社単体における耐火物販売数量の増加に加え、海外関係会社の売上増加が寄与し、増収
- ▶ 高付加価値製品を中心とした拡販活動、価格設定の適正化および継続的なコストダウンにより、EBITDA・営業利益ともに増益

＜今後の課題＞

- ▶ グローバルネットワークを活用した市場開拓および販売拡大
- ▶ モールドフラックスの欧州生産拠点確立および米州事業基盤の強化
- ▶ 連続鑄造用機能性耐火物における中国生産拠点の早期本格稼働およびグローバル販売網の拡充
- ▶ 国内の電炉・非鉄・工業炉分野におけるシェア拡大
- ▶ GREEN REFRACTORY※の市場浸透拡大および大型電炉向け等の製品開発強化
- ▶ 生産性向上と調達最適化による収益力強化

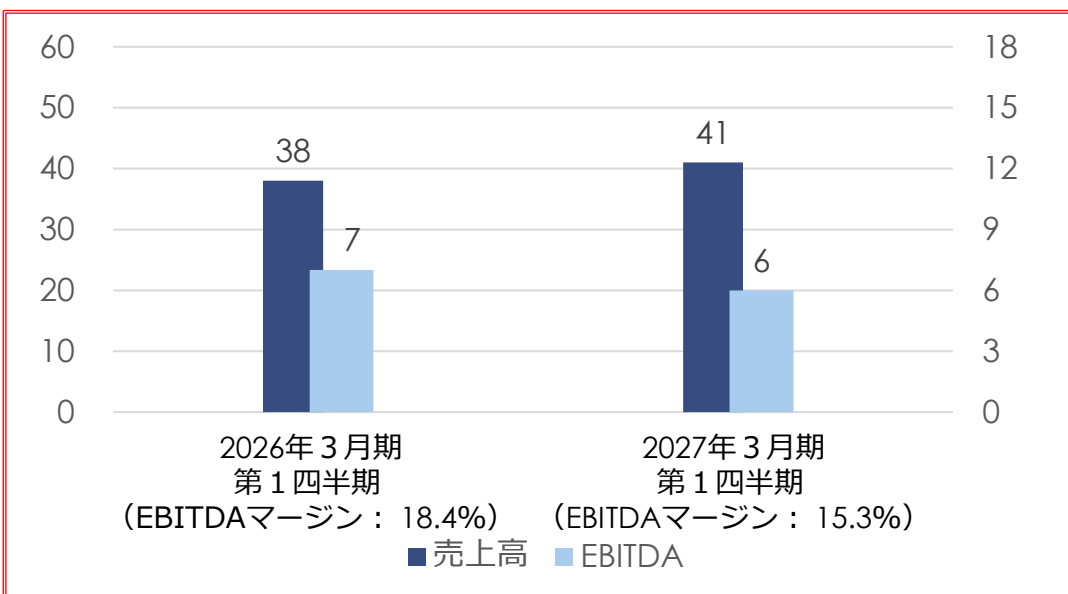
※ GREEN REFRACTORY：使用後耐火物等のCO₂排出量を実質ゼロと見なせる原料を20%以上使用した製品、およびお客様の使用現場における熱ロス低減に寄与する製品

5. セグメント別概況 ②断熱材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	38	41	+2 (+6.9%)
EBITDA	7	6	▲0 (▲11.2%)
営業利益	5	4	▲0 (▲18.7%)
EBITDAマージン	18.4%	15.3%	- (▲3.1Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ 半導体関連分野における需要回復に加え、国内外での拡販活動による案件獲得が進展したことにより、増収
- ▶ 一方、販売構成の一過性の変化により、EBITDA・営業利益ともに減益

<今後の課題>

- ▶ 海外グループ各社との連携強化を通じた新規市場の開拓（欧州・中東・南米地域の鉄鋼・非鉄・石油化学分野等）
- ▶ 重点分野向け製品の開発・販売強化（半導体、エネルギー、電子部品、建築分野等）
- ▶ 超断熱製品LTCシリーズ※の市場浸透拡大（溶鋼処理炉・非鉄保持炉・各種工業炉向け）
- ▶ 事業拡大を見据えた生産・供給体制の強化

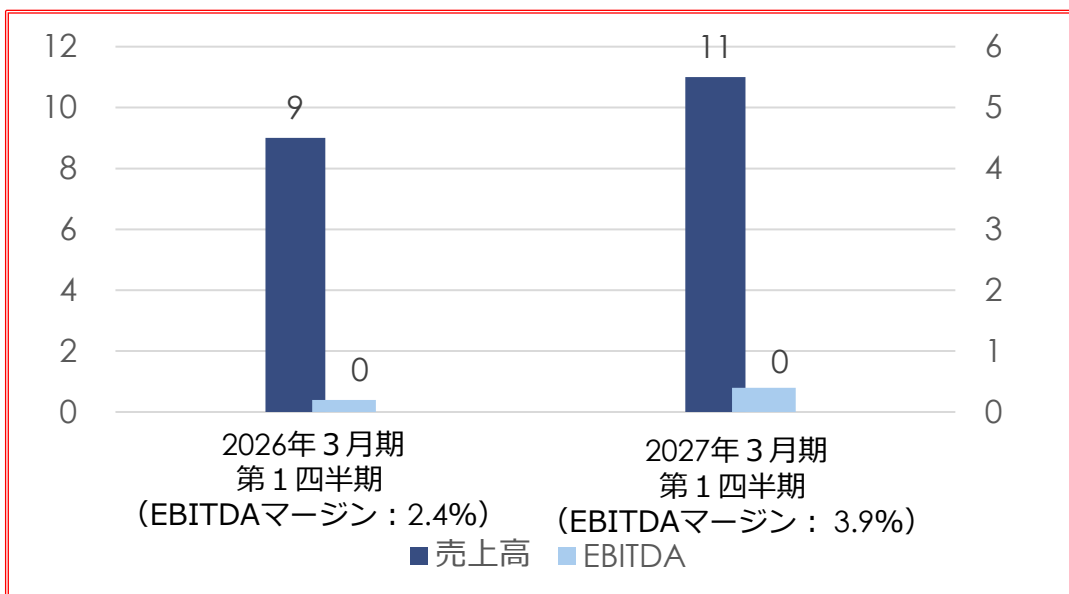
※ LTCシリーズ：マイクロポーラス構造により極めて高い断熱性能を発揮し、熱ロス低減に寄与する製品

6. セグメント別概況 ③先端機材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	9	11	+2	(+21.0%)
EBITDA	0	0	+0	(+96.8%)
営業利益	▲0	▲0	▲0	(- %)
EBITDAマージン	2.4%	3.9%	-	(+1.5Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<第1四半期業績について>

- ▶ ファインセラミックス製品の拡販に加え、半導体製造装置関連事業の需要拡大により、増収
- ▶ EBITDAは増益となった一方、営業利益は瀬戸内工場の稼働に伴う減価償却費増加の影響により、減益

<今後の課題>

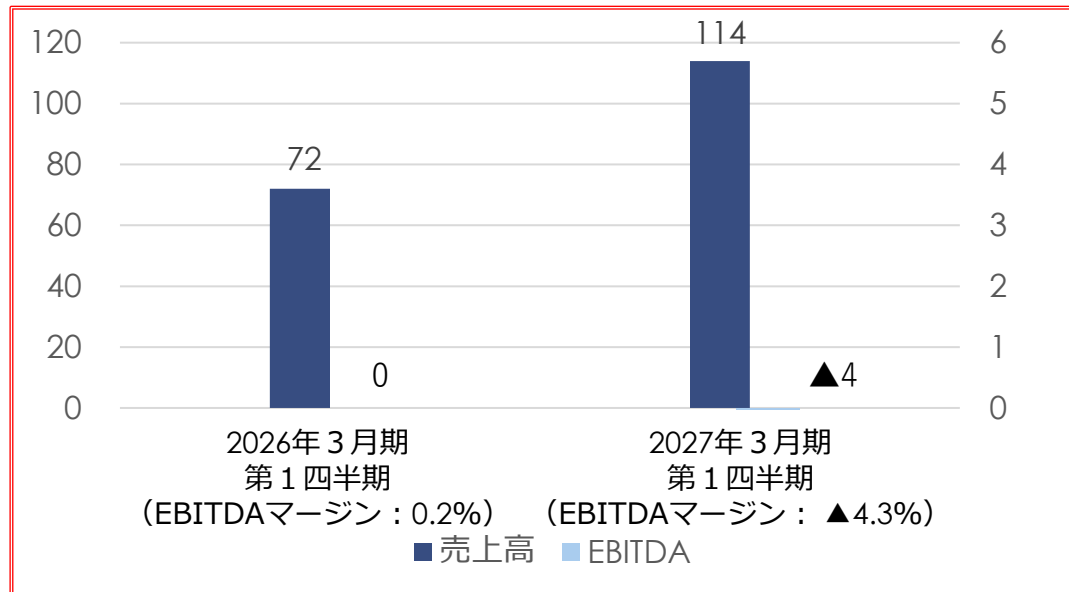
- ▶ 半導体製造装置関連事業の拡大（ファインセラミックス製品のシェア向上、コムイノベーション社の事業領域拡大）
- ▶ 次世代エネルギー分野等の新規市場開拓
- ▶ 各分野向け耐摩耗部材のラインアップ拡充および拡販
- ▶ 無機塗料・無機接着剤製品の拡販
- ▶ 精密加工・精密検査機能の強化による生産・供給体制の拡充

7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

業績推移

(単位：億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	72	114	+41	(+57.5%)
EBITDA	0	▲4	▲5	(- %)
営業利益	▲0	▲9	▲9	(- %)
EBITDAマージン	0.2%	▲4.3%	-	(▲4.5Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

＜第1四半期業績について＞

- ▶ 前第2四半期より連結対象となったReframax社の売上寄与により、増収
- ▶ Reframax社において主要顧客の工事時期後ろ倒しや、インフレ進行に伴うコスト上昇等の影響により、EBITDA・営業利益ともに減益

＜今後の課題＞

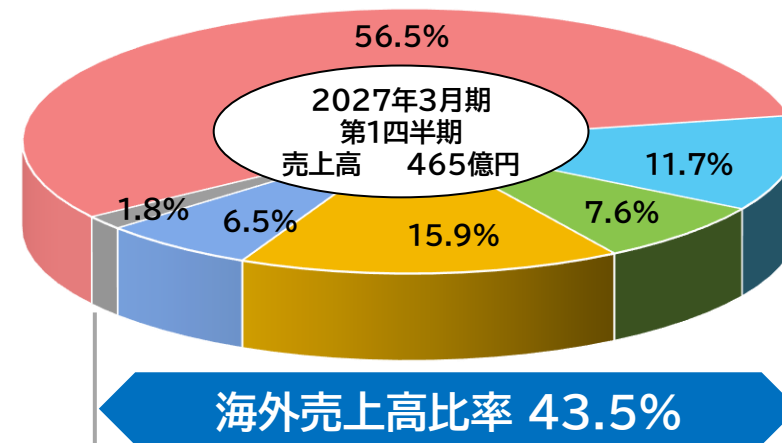
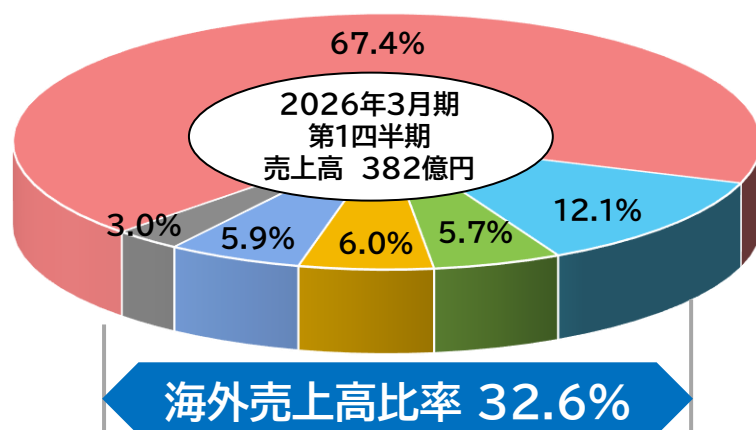
- ▶ Reframax社における工事案件の着実な遂行およびコスト上昇分の価格転嫁
- ▶ 各セクターとのシナジー創出およびReframax社との技術連携によるエンジニアリング事業の強化
- ▶ 高度な技術力を活かした工業炉分野（カーボン焼成炉等）での受注拡大
- ▶ カーボンニュートラル関連設備案件（大型電炉等）への着実な対応
- ▶ 耐火物リサイクル事業の拡充による循環型ビジネスモデルの強化

8. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比
日本	257 [67.4]	263 [56.5]	+2.0%
アジア・オセアニア	46 [12.1]	54 [11.7]	+17.9%
北米	21 [5.7]	35 [7.6]	+61.8%
南米	22 [6.0]	74 [15.9]	+224.8%
欧州	22 [5.9]	30 [6.5]	+34.5%
その他海外	11 [3.0]	8 [1.8]	▲24.6%
合 計	382 [100.0]	465 [100.0]	+21.8%

注: []内は、地域別の売上高構成比(%)



当第1四半期の海外売上高比率は、前年同期比で10.9ポイント上昇の43.5%となった。前第1四半期には含まれていなかったブラジルReframax社の業績が寄与したことで南米地域の売上高が増加したほか、2026年3月に新たに加わった米国Dynamix社の業績寄与等により、北米地域も伸長。通期ベースの海外売上高比率は、第6次中期経営計画の目標である**45%**に達する見込み。

9. 2027年3月期の通期業績見通し

(単位：億円)

	2026年3月期		2027年3月期				
	第2四半期実績	通期実績	第2四半期見通し(今回)	前年同期比増減率	通期見通し(前回5/15)	通期見通し(今回)	前期比増減率
売上高	818	1,777	950	+16.1%	1,890	1,980	+11.4%
EBITDA	101	221	90	▲11.6%	220	220	▲0.6%
営業利益	61	136	45	▲27.1%	130	130	▲4.5%
経常利益	69	159	55	▲20.4%	130	140	▲12.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	43	260	65	+49.6%	100	105	▲59.7%
<指標> EBITDAマージン	12.4%	12.5%	9.5%	▲2.9pt	11.6%	11.1%	▲1.4pt
ROS（営業利益率）	7.6%	7.7%	4.7%	▲2.9pt	6.9%	6.6%	▲1.1pt

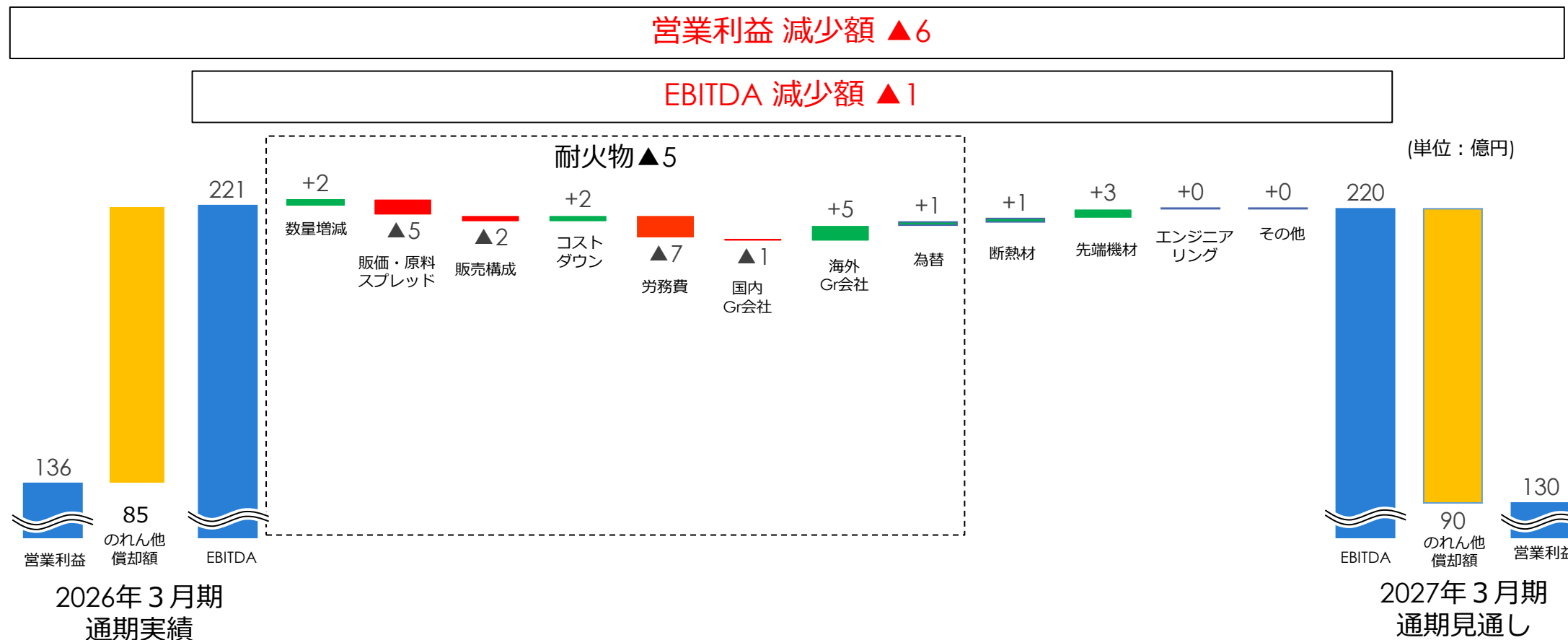
<2027年3月期 第2四半期見通し>

- 売上高は、M&A効果により大幅な増収見込み。一方、損益面では、耐火物セクターにおいて中東情勢に起因する原燃料コストの上昇や一部海外関係会社の設備トラブルの影響を受けたことに加え、エンジニアリングセクターのReframax社において主要顧客の工事時期後ろ倒しやインフレ進行に伴うコスト上昇が発生した。これらの結果、EBITDA、営業利益および経常利益は減益見込み。親会社株主に帰属する当期純利益は、土地収用に伴う固定資産売却益の計上により、増益見込み。

<2027年3月期 通期見通し>

- 売上高は増収見込み。損益面では、下期における耐火物セクターの原燃料コスト上昇分の価格転嫁の進展や設備トラブルの影響解消に加え、Reframax社の後ろ倒しになったプロジェクト案件の年度内の着実な遂行とコスト上昇分の価格転嫁、ならびに断熱材・先端機材セクターでの半導体関連分野を中心とした需要拡大により、EBITDAは前期並みを確保する見込み。一方、営業利益および経常利益は減益となる見込み。親会社株主に帰属する当期純利益は大幅な減益を見込むが、これは前期に多額の固定資産売却益を計上したことが主な要因。

10. 2027年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し（対前年度）



全セクターにおけるグローバルネットワークを駆使した拡販や継続的なコストダウン等を推進するものの、中東問題等に起因するエネルギー・原材料コストや労務費の増加を見込み、EBITDAは前期比ほぼ横ばい（▲1億円の減益）、営業利益はのれん他償却額を勘案し、▲6億円の減益見通し。

ご注意

本資料は、2027年3月期第1四半期連結累計期間（2026年4月～2026年6月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2026年8月10日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。